

小6外国語科(中学校教員とコラボ)



中学校での授業をイメージして

小学校の6年生の全ての外国語科の学習において、中学校の英語科の先生に来ていただき、担任と共に授業を行っています。授業の中で、正しい発音を示していただいたり、正しい文法を意識できるような声かけをしていただいたりしています。授業の中で、子供たちは、中学校の先生に英語でインタビューする等、様々なやり取りをしながら楽しくコミュニケーションをとることで、自然に信頼関係を築き、中学校での英語学習に聞きたいことがいっぱい期待を膨らませています。



小学校の先生に英語でインタビューする等、様々なやり取りをしながら楽しくコミュニケーションをとることで、自然に信頼関係を築き、中学校での英語学習に聞きたいことがいっぱい期待を膨らませています。

香川大学教育学部 齋藤嘉則教授より

現在、小学校、中学校の英語指導の要諦は校種を超えた連携、協力、コラボです。附属坂出小中ではこのことに日常的に取り組み実践していて、子供たちの学びが着実に進んでいます。小中一貫教育の大きな成果です。さらに、地域のモデルとして地域貢献も果たしています。この貴重な取組が継続され、発展されることが大いに期待されます。



小中合同研修

本年度より、小中教員がお互いの研究授業を参観し、討議を重ねる取組を始めました。

小学校教員は、中学校での学びを意識することで、小学校段階でどのようなことを学ばせておくべきかを考えながら参観し、自身の授業の在り方を見直すことに役立てています。中学校教員は、研究テーマである「ものがたり」の授業につながるメタ認知を働かせている子供の様子に関心をもって参観し、小学校での学びや、それを基にした中学校での学びの在り方について、活発な意見交流を行っています。

お互いのよさを取り入れながら、一貫した教科学習を充実させていきます。

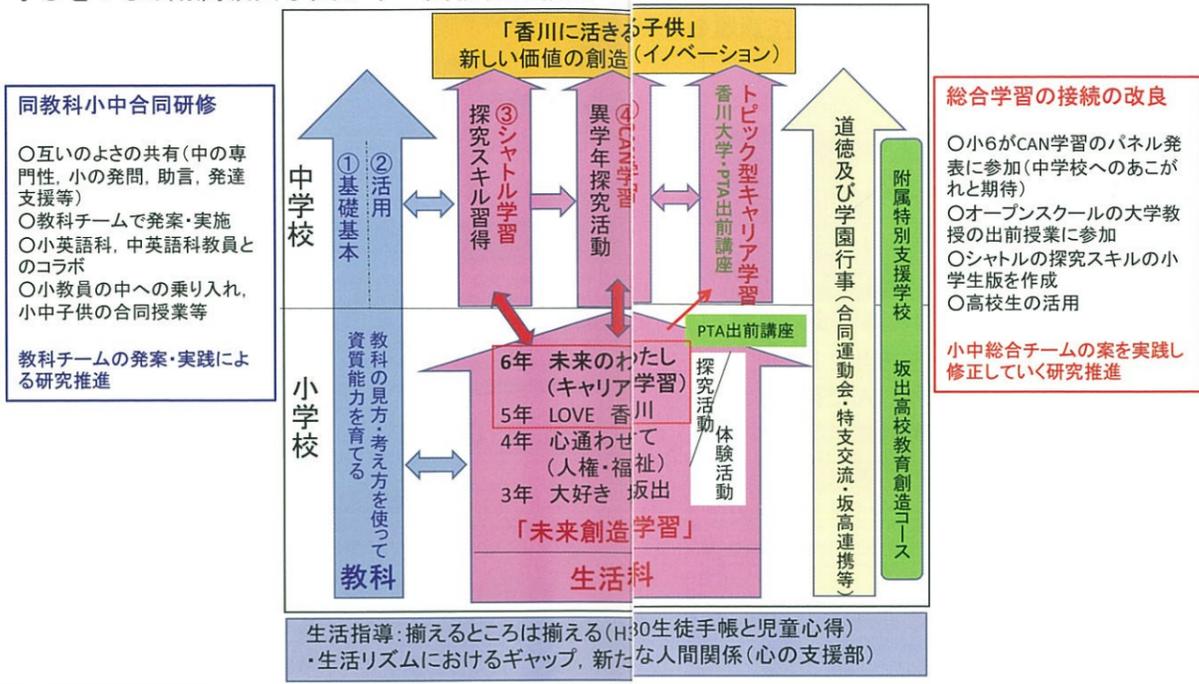


中の研究授業に小教員が参加



小中のよさを学び合う研修会

学びをつなぐ附属坂出学園小中一貫教育の構想



小学校の総合的な学習の時間(「探究スキルブック」の活用)

小学校の未来創造学習(総合的な学習の時間)では、中学校のCAN学習につながる探究スキルを育てるため、シャトル学習を参考にした「探究スキルブック」を小中で共同開発し、活用しています。課題設定のためにブレインストーミングを行ったり、課題探究のためにインターネットで情報の収集・精選をしたりしています。スキルブックの活用で子供たちの主体性も大きく育っています。



ブレインストーミングのスキルを

秘伝 その1 「問いつくりマスター」

A graphic with a cartoon character and text explaining the 'Question-making Master' technique, including a list of 5 tips for effective questioning.

「探究スキルブック(ブレインストーミング編)」より抜粋

CAN2019 ただいま探究中です

総合学習CANは、「生徒自らが設定した課題を多様な立場の人と協力しながら探究することを通して、自己の成長や可能性を実感し、社会に柔軟に対応しながら学び続けるための資質能力を育成する」ことを目的とした本物の探究学習です。この目標を達成するため、CANでは生徒自らが課題を設定することや、多様な立場の人とつながり、互いの意見や考えを語り合うこと、仮説や見通しをもった探究活動を行うことを重視しています。それらを達成するために次の①、②を重点項目とした手立てと活動を行っています。

- ①語り合い、探究する学びの過程を充実させるために
・幅広い分野や視点から疑問や問いを作り出すことができるように、課題設定の際に分類表と3つの視点を与えるように工夫しました。
・多様な立場の人とつながることができるように、CANの日を2回から3回に増やすだけでなく、テーマ設定や探究活動、中間発表会で小学校や高校、大学、専門家、保護者などにも参加してもらい、交流する機会を増やしました。
・探究深化シートを工夫し、探究のゴールや探究仮説、探究の手立てなどを一枚にまとめ、見通しをもった探究活動ができるようにしました。

②「自己に引き付けた学び」を生み出すために
これまでもCAN活動を終えた後に、CAN物語を記述していました。今期は、自己の変容を実感し、より自己に引き付けた語りとなるよう、記述の際に与える視点などを工夫しようと考えています。



CANの日に高校生と一緒に探究

シャトル学習で、CANに活かせる探究スキルの習得を

総合学習シャトルは一般講座と特設講座に分かれており、そのねらいは共通学習における活用と総合学習CAN(以下CAN)における探究とをつなぐことです。今期は一般講座を8時間、特設講座を2時間×2回の計12時間で行っています。一般講座には「実験」「創造」「調査」の3つの分野があり、生徒は自分の探究活動の内容をふまえ、講座を選択します。講座ごとに習得をめざすスキルは異なりますが、どの講座を受講しても生徒は「課題設定」「課題追究」「表現」「自己評価」という探究サイクルを体験することができます。生徒は8時間の中でそれらの探究サイクルを体験することを通して、CANでの探究につながる探究スキルを身に付けることができます。

また、特設講座は探究スキルの習得に特化した講座です。全部で16講座あり、それぞれの探究の過程で必要になるスキルについて学習することができます。生徒は、それらの講座から自分の探究を深めるために必要だと思うスキルを2つ選択し、受講します。この16講座の探究スキルは、小学校の総合学習の時間にも活用されています。



企画書を作ってプレゼンしている様子

CANのクラスターに小6が参加

小学校の6年生が、中学生のCAN学習に参加し、意見を言ったり、知りたいことについて質問したりしました。6年生の振り返りからは「中学生になったら自分も楽しい研究をしたい」など中学生へのあこがれを抱く様子や「中学生がたくさん調べていてすごかった。自分にはもっと思ったことを話すことが必要だと感じた」など自分に必要なことを見直している様子が伺えました。



小6の質問で盛り上がる話し合い